

共生のまちづくりについて考えるワークショップ等 実施概要

【目的】

これまで実施してきた条例認知度調査において、特に20代以下の認知度が低いことから、大学生との共生のまちづくりについて考えるワークショップ等を通じて、若年層への周知啓発と意識醸成を図る。

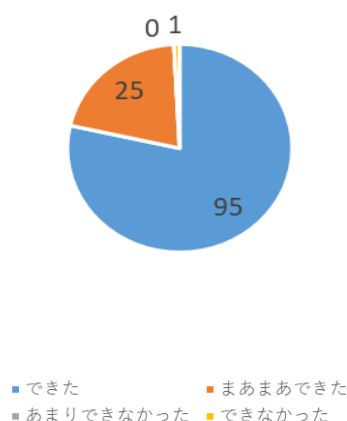
【実施概要】

実施日	令和 7 年 7 月 8 日（火）	令和 7 年 11 月 17 日（月）	令和 7 年 12 月 12 日（金）
大学・学科	新潟国際情報大学 国際学部	新潟大学 教育学部 特別支援教育専修	新潟県立大学 子ども学科 福祉事業型専攻科KINGOカレッジ
参加人数	42名	23名	22名
主な内容	条例等に示す身近なテーマを通じて、共生について考えるグループワーク	障がいのある当事者・教授の対談	条例等に示す身近なテーマを通じて、共生について考えるグループワーク

実施日	令和 7 年 12 月 18 日（木）	令和 8 年 1 月 19 日（月）
大学・学科	新潟青陵大学 社会福祉学科	新潟薬科大学 応用生命科学部 応用生命科学学科
参加人数	61名	15名
主な内容	条例等に示す身近なテーマを通じて、共生について考えるグループワーク	条例等に示す身近なテーマを通じて、共生について考えるグループワーク

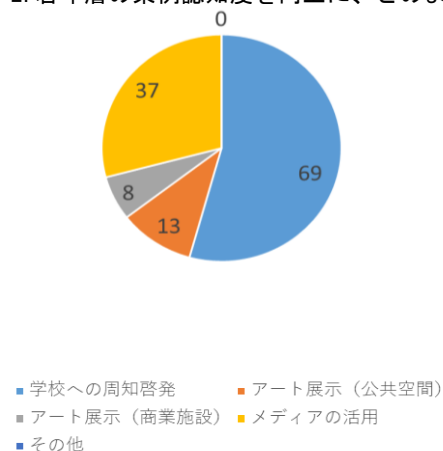
【アンケート結果】

1. ワークショップを通じて、講義の内容や共生への認識を高めることができましたか？



- ・実際にろう者の人の話を聞くことでろう者の人がどのようなことで困っているかを理解し、対応の仕方考えることができた。ろう者に限らず、困っている人たちがいたらどのようなことができるかを常に考える姿勢が身についたと思う。
- ・自分の置かれている環境が当たり前だと思わないこと、「伝わらない」という状況をどちらか一方の問題ではなくお互いが歩み寄って解決しようとするなど、お互いが理解し合おうとすることの大切さを改めて感じられた。
- ・合理的配慮という言葉は聞いたことはあったが、実際に自分がどう行動すると良いのか事例を用いて考えたりほかの人の意見を聞いたことで理解を深めることができた。
- ・障がいの有無に関わらず「一人ひとり違う」という当たり前のことを改めて実感でき、共生社会への理解が深まった。

2. 若年層の条例認知度を向上に、どのような取り組みが必要だと思いますか？（複数回答）



- 【学校での周知啓発】
 - ・直接話をするのが一番伝わると思うから。パンフレットを配っただけでは伝えたいことが伝えきれず、捉え方に差が生まれる場合もあると思う
 - ・自分からは情報にアクセスしない人も、授業などで周知啓発してもらうことで情報に出会えるから。
- 【メディアの活用】
 - ・SNSを利用する若者は多く、目に留まりやすいと感じるから。
 - ・情報発信のツールとして有効だと思うから。
- 【アート展示】
 - ・駅やバスの中など若い人が使う施設などでアートを見る機会があると障がいへの理解が深まりやすいと思うから。

3. 意見・感想

- ・自分にとっての「当たり前」が、相手にとっては「当たり前ではない」ということについて学べた。視覚障がいや聴覚障がいがある方は白杖や口を大きく開けて、ゆっくり話すという配慮ができること、知的障がいの方には私たちが障がいについて理解を深め、暖かい目で見守ることが大切だと今回の講義を通して知ることができた。
- ・全ての人が暮らしたいところで暮らしやすくなる社会のために私ができることは小さな気遣いと話しかける勇氣を持つことだと感じた。
- ・障がいはいは一人一人の特色であることを認識し、自分ができるサポートを探すことを大切にしていこうと思う。
- ・当事者の方の考えや意見、生活について話を聞くことができ新たな学びを得ることができた。今回の講義を通して改めてお互いが共に理解し合い、共生していく必要があり、そのためにはもっと社会に周知する必要があると感じた。